



泥で作られた小さな壺のような塊を皆さんも見たことがあるかと思えます。口がまるで徳利のようなこの壺は、実は狩人蜂のなかまのトックリバチの巣なのです。

原始人が見習ったハチ?

トックリバチは年数回発生し、体長は10〜15mm、黒色でやや光沢をもち、胸と腹に黄色の帯条の模様、足は黒色です。泥で壺状の巣を作ることよく知られています。北海道から九州・対馬まで広く分布し色々な所で巣を作ります。

この巣の形は世界共通で、かつて原始人が水を入れる壺を作った時にその口の部分はこの巣を真似たのだろうとの説があります。

里山に育む生きものたち

30 トックリバチ(ミカドトックリバチ)

(膜翅目 ドロバチ科)

学名 Eumenes micado Cameron 1904

写真・文 / 小菅 次男

壺作りの芸術家

粘土を集め木の根元やコンクリートの塀、小枝などにとっくり状の巣を作ります。壺作りは、粘土のある場所を探し、水を吸ってきて水と粘土をこねてからアズキ粒の半分ぐらいの土だんごを30秒から2分ぐらいかかって作り上げ、この土だんごをたくさん使った壺を作っていきます。壺になつてからの粘土の厚さは1mm内外、巣の大きさは親指の頭ぐらいで、とっくりの口のような、杯型にひらいたような首がつけられています。

蛾の幼虫を狩る

巣が出来上がると、母蜂は巣の中に産卵してから狩りを始めます。獲物はシヤクガなどの幼虫です。獲物を見

つけると、獲物の頭を顎で押さえ、毒針を指して麻酔します。麻酔した獲物を何度も巣に運び込み、壺がいつぱいになるまで貯めこみます。一杯になると泥を運んできて、壺の入り口を塞ぎます。

巣の中のかくり

巣の中をのぞいてみると、産み付けられた卵は獲物の上にはなく、クモの糸のような細い糸で丸屋根の天井から吊り下げられています。ふ化した幼虫は卵と同じように、天井から糸で吊り下げられ、頭を下にして餌を食べます。幼虫が大きくなると糸から離れ、自由に餌を食べるようになります。

卵は5日かえり、幼虫は仮死状態のシヤクトリムシを食べながら成長し、約17日で蛹となり、その後約15日間羽化します。

狩人蜂のなかま

狩人蜂は単独で生活し、虫やクモを狩って幼虫の餌とします。獲物は種類によって決まっています。土の中に穴を掘って巣を作るジガバチ類はアオムシ、アナバチ類はキリギリス類、ベッコウバチ類はクモを狩ります。泥で壺をつくるトックリバチ類はアオムシ、竹筒や木の枝の穴、ヨシズの筒穴などを利用するドロバチ類はアオムシやクモを狩って幼虫の餌とします。

編集・発行 / 茨城町総務企画部まちづくり推進課

〒311-3192 茨城県東茨城郡茨城町小堤1080 TEL 029-292-1111 FAX 029-292-6748

ホームページアドレス <http://www.town.ibaraki.lg.jp/> メールアドレス ibarakit@town.ibaraki.ibaraki.jp

DATA

茨城町の人口と世帯数 ※カッコ内は前月比です。(住民基本台帳 平成26年8月31日現在)

◆総人口 33,935人 (-38)、男 16,989人 (-26)、女 16,946人 (-12) ◆世帯数 12,686世帯 (-6)

DATA

再生紙を使用しています

PRINTED WITH
SOYINK

環境に優しい大豆インキを使用しています